

第 22 回みのわ未来委員会会議要録

日時：令和元年 10 月 30 日（水）15 時 00 分～17 時 00 分

会場：箕輪町役場 大会議室

参加者：委員 8 人（欠席：重盛委員、高橋委員、中村委員、那須委員）

事務局 3 人（企画振興課）

傍聴人数：0 人

報道機関：1 人

1 開 会 （毛利企画振興課長）

2 委嘱書交付

3 会長挨拶

4 町長あいさつ

5 自己紹介

6 副会長の選出

木村委員を選出

7 協議事項

(1) 箕輪町第 5 次振興計画の進捗と評価について

○防災関連について(防災意識、避難所、情報伝達手段、雨量計、協定)

野澤：防災意識は、数字は分からないが、上伊那は低いと思う。来年度以降、改善が必要では。松島、木下の町民が全て避難するとして、全員避難出来るのか。そういった事への対応を来年度以降行うか。

町長：防災意識は低いと思うが、数字が無い。把握しないといけない。9月の防災訓練は、箕輪町が、上伊那では 1 番出席率が低い。ハザードマップの想定浸水区域は、9割方合っている。それを町民に意識してもらおう。ハザードマップを理解してもらおう研修を行う必要がある。また、各地区毎のハザードマップ作成の必要もある。ハザードマップは過去のものからの想定で、実際の災害では想定を超えてくる可能性もある。避難勧告を出しても、全員が行ける場所はない。避難する所のシミュレーションが必要。民間の工場等を含めて、行く場所を考える必要がある。天竜川の安全性を確認する必要がある、天竜川に流れ込んでいる一級河川も幅が狭いので、浸水の可能性ある。町、地域、個人でやる事を考える必要がある。後期計画で入れていく必要がある。

小松：木下文化祭に来ていた 50 才以下の方々からの要望。県はツイッターで災害情報を流していた。町としてもツイッターを使用した情報発信があると良い。また、防災訓練でスマホの使用について考えられる場があればいい。各公民館に無料 wi-fi を。

町長：防災情報を色々な手段で出す必要がある。防災ラジオ、防災アプリ、ツイッターが考えられる。防災情報については、国・県から送られてきているものを咀嚼している時間がある。手法については分かりました。

会長：地区で自主防災会の役員をやっている。住民の皆さんにいかに情報を伝えるか。町

内の雨量計の増加ができないか。雨量計を計測して、メール配信して欲しい。

町長：雨量計6つある。HPに流れている。15 地区全てに雨量計の設置は出来ないが、必要かもしれない。

柴：各地区に連絡が下りていく連絡網のようなものはどうか。

町長：HPを見て欲しい。もみじちゃんメールでの配信は有用かもしれない。

矢島：KOAの会社施設について町と協定を結んで、避難場所として提供するという話し合いもさせてもらえれば。各企業も玉を持っていると思うので、そんなお話を商工会経由とかでいただければ協力出来ると思う。今の企業は、備蓄品を沢山持っている。防災協定のようなものを結べればと思っている。1つお願いとして、水が止まってしまうと困るので、水道の防災をしっかり行っていただければ。災害に強い町は、企業誘致に対してPRにもなる。

町長：トータルの町の安全は高いと思うが。防災に関しては低いと思う。西山は、イエローゾーン。公民館では収容しきれない。大規模農道より下に避難所があればいい。ぜひ協力いただきたい。倒木対応も行いたい。切れるものは、切らないといけない。

沖村：箕輪町は、災害時の協力協定を結んでいるのか。

町長：遠い所だと、豊島区、幸田町と結んでいる。遠い所といくつか防災協定を結んでいる。

沖村：被災地域は重なるので、分散して持っているのは良い事。

○人口問題について

沖村：人口問題について、県内市町村の人口減少の中で、自然増は南箕輪村だけ。社会増は3町5村で、箕輪町が入っている。箕輪町の人口増加の要因は何か。それが分かれば、重点施策と出来るのでは。

町長：社会増が増えた要因は経済的動向によるもので、経済動向が良かったから移住定住施策で効果があったとしても、諏訪、松本、近隣市町村から来ているだけになってしまっている。本当は、遠くから来てもらいたい。そういったところは県に対応してもらいたいが。Uターンを進めていきたい。現在の帰還率は、約4割(女性は3割)で、この数字を上げていきたい。

沖村：箕輪町はものづくりの町。こういったのを活かしていくべきでは。資料中の内部評価、努力が必要をしっかりやってもらいたい。

町長：ここ最近、状況が良くて、ほとんど企業誘致の出来る土地が埋まっている。誘致できる土地を確保しようにも農地法の壁や土地利用の壁がある。

沖村：企業立地促進法が改正されて、農振を外しやすくなった。

○中小企業の休職職員のフォロー体制について

柴：病気から戻ってくる人を守ってあげるべきでは。手術や病んでしまって病院に入った方が、元いた企業、別の企業で働く場合に、町役場の人に、保健師でもいいが、支援してもらえないか。大企業には、そういったフォローをする人が在籍しているが、中小企業にはいない。働きたいのに雇えないのはもったいない。町の方でコーディネーターによる支援体制の仕組み作りをしてもらえれば、もっと働ける人がいる。大きな企業だと社会復帰

コーディネーターがいる。KOAさんはいかが。

矢島：当社の場合、コーディネーターがいて、退職後の支援、勤務時間等を相談出来る仕組みがある。公的な支援もあると聞いている。まずは、元いた会社がそういった方を守ってあげるべきだと思う。企業体力によって違うと思うが、元いた会社に戻れるようにするべきでは。

町長：研究させてください。

○婚活事業について

木村：会社で事業継承に携わっているが、箕輪町の会社の後継者で若い未婚者が多いと感じた。なかなか、出会う機会が無いとの事。30代～40代が結婚で苦勞すると、若い人も東京に出て相手を探すようになってしまう。都心でUIターン希望のある男女のカップリングが出来るといいのでは。聞いた話だが、テレビ番組のお見合い大作戦はいい地域活性化になったとの事。

毛利課長：お見合い相談の場について、町では、男性が圧倒的に多く登録している。町の中だけだとエリアが狭すぎるので、他市町村と連携したいが、個人情報への壁がある。そんな中で上伊那、諏訪の相談所と連携している。3大都市圏だと中京圏でイベントを行っている。年に1件、2件成婚あれば良い方。後継者の方については、忙しいかもしれないが、会ってみたい。

○松くい虫について

山中：指標の空欄があるので入れられないか。松くい虫は。箕輪町で被害が出てきたと感じるが、対策はしているか。

町長：被害のあった松は全て駆除している。一定の地域の松を全て切っている(福与、伊那の手良)。結果的には、被害が増えている。空欄となっている指標については、何か考えてみる。

○土木事業の負担金について

会長：道路、水路改修の際の地元負担金について。地元負担金が必要になってくるので、小さい区は要求出来ない。50mの水路を一回でやった方がいいと思うが、少しずつやる事になる。地元負担金を町に払った後に、交付金で区に返ってくるのはムダだと感じる。町道は、町民皆のものと思うので、区単位での負担はどうかと思う。地元負担金の廃止を検討した事はあるか。

町長：現在の状況として、区の要望の30%しかいってない。私は、会長と同じ考え方。変えようと思ったが。例えば、道路補修費に1億円かかっている内の15%を地元区からもらっている。負担金をもらえない場合、8500万円で行う事になり、出来ない箇所が出てくる。

小口：その分、活性化交付金で返しているのでは、今の負担金の在り方に疑問を感じる。

町長：私もそう思う。承知しました。

会長：第5次振興計画の質疑は、以上。外部評価としては、内部評価を良とすることによるしいか。

委員：よろしい。

(2) 総合戦略の進捗と評価について

○バスの運行率について

矢島：バスの乗車人数は分かるか。

小笠原係長：延べ 27,762 名。町内巡回、240 日位。

町長：減少気味。子供達の通学用バスとして使われているが、朝部活が減少傾向でダイヤが合わないことも要因。

矢島：通学で使用しているのは分かる。自動運転やタクシーへの振り分けは。

町長：コミュニティバスは、7割～8割の交付税措置があるが、これをタクシーに振り分けると無くなってしまう。国に制度を変えてもらわないと。タクシーだと、運転手不足も課題。

矢島：利用者に使い勝手の良い制度になればいい。

○児童遊園について

木村：児童遊園の修繕について、KPIでは10ヶ所の内1ヶ所実施となっているが、低いのでは。子育てに力を入れるのであれば、一層の注力をお願いしたい。

町長：児童公園、各区の公民館の前にある小さなもの。今は、比較的大きな公園の遊具を更新している。大きい所から手をつけている。都市公園である、天竜公園は、別に行っている。

○箕輪町から全国大会に出るチームへの支援について

柴：箕輪という名前を冠して全国に出ていくチームにマイクロバスを貸し出せないか。チーム内で費用が捻出できず、行けないチームがある。町長：分かりました。研究させていただく。

矢島：上伊那広域では、郷土愛プロジェクトの助成制度がある。運動系だけでなく、文化系も対象となり、事前申請で、わずかな額だが支援がある。ただし、年1回の申請で使い勝手が悪い。

○企業誘致について

野澤：目標値1社というのは低い気がするが、何故1社なのか。

町長：記載されている累計は、町が関わって誘致出来たものの数字が入っている。1というのは、企業立地の事だと思うが、また確認する。

○バスの利便性の向上について

山中：消費増税の使い途。大学、高校生の世代は、消費増税の恩恵を受けられない空白の世代。町内バスと電車の時刻表がかみ合わず、使い勝手が悪い。箕輪町から松本に行く学生は、8割方が松本で1人暮らし。

町長：何処をバスのターゲットにするかによる。大学、高校生は、利用者として想定していない。また、他の公共交通機関との連携は考えていない。伊那本線とみのちゃんバスもあまり連携が無い。本来、民間企業がやる事を国のお金を使って町が行っている。

山中：大学、高校生は、消費税が10%に上がった恩恵が無い。高校生がバスを利用して、駅に行くと、あと数分違えば電車に乗れるのにとこの事がある。

町長：確認する。

○バナナ公園の遊具について

小松：バナナ公園の整備をしていただいております。夏の早い時間に公園に行き、滑り台を使用しようと思ったが、すべるところが熱くて乗れなかった。熱さ対策をして欲しい。

町長：初めて聞いたので、確認する。

会長：総合戦略の評価について、外部評価は内部評価を良とすることでよろしいか。

委員：よろしい

(3) 地方創生推進交付金の評価について

○リニア開通を見据えた事業について

矢島：次年度に向けて、2027年のリニア開通を視野に入れた事業を行ってはどうか。長いスパンで上伊那、伊那谷全体で取り組む必要がある。

町長：分かりました。

○交付額について

沖村：箕輪町の規模として、交付額がこれでいいのか。今ある事業を衣替えしてやれば、予算を倍に膨らまして事業が出来る。

町長：分かりました。

会長：平成30年度の外部評価については、内部評価を良とする事でよろしいか。

委員：よろしい。

(4) 地域コミュニティ活性化委員会の審議状況について

山中：毎年、色々な役をやっている。地域コミュニティは大変大切だと思っている。地域のしがらみが大変で逃げてしまう人もいる。地域のしがらみについて話し合いが行われていけばいいなと思った。

小松：本委員会に参加して、区費の差がある事が分かった。常会加入の義務化は無理か。

町長：無理です。

小松：月300円払えば、ゴミ出しが出来て他の役からも逃げられるならと払う方がいる。300円の回収に行く時にブツブツ言われる。

山中：地域コミュニティは必要だと思っている。隣の村は、若い人が多く入っているが、自治会に入らない。若い人の感覚で動いて、今まであった秩序が崩れていると聞いた。秩序が無いのはまずいので、地域のコミュニティを大切にしながら、伝統を大切にしつつ、改革する時がきたのではないかと思う。

8 その他

9 閉会(毛利企画振興課長)